

学生データを用いたキャリア向上 情報推薦機構

滝沢 光介

富山県立大学 電子・情報工学科

July 20, 2021

背景

近年、コロナウイルスの影響から売り手市場で会った就活情勢が買い手市場にシフトしつつある。そこで学生は就職を希望する会社に入社するにはその会社が求める人材になるために効率的に勉強を行う必要がある。

目的

過去の卒業生の就職先や成績などのデータベースからクラスタリングを行い、その学生がどうしたら希望する企業に効率よく就職できるかのフィードバックを行うようなシステムを作成する。

現在考えている機能について

目標とする企業を指定し、過去の学生の成績や行動を分析



これらの分析結果から学生がどの分野、どの勉強を行えば効率的に
その企業へ就職できるかをフィードバック

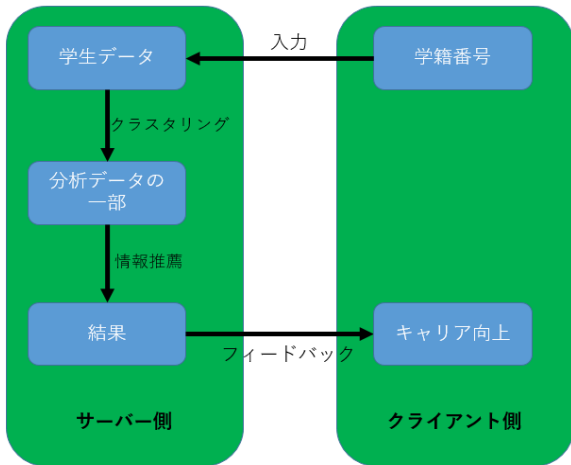


図 1: システム全体の流れ

- 1 章 はじめに
- 2 章 既存システムについて
- 3 章 クラスタリングおよび情報推薦について
- 4 章 数値実験, 考察
- 5 章 おわりに

はじめにについて

この研究をするにいたった背景やこの研究の目的など

既存システム

様々な大学で就職支援システムと題したシステムは実装されているがその実態は, 求人情報や企業情報をまとめただけのものが多い. また, 学生の成績の向上を目的としたシステム「M2B」が存在するがあくまでも授業中の理解度などから学習支援, 教育改善を図るためのシステムであり, 就職に対する支援としては十分な役割を果たせていない.

クラスタリング

ストリームデータと呼ばれる、データをクラスタリングする非階層クラスタリング手法として *BIRCH* や *VFKM* が挙げられるがそれらの手法はハードクラスタリングに分類され、ストリームデータに対するソフトな非階層クラスタリングは少ない(もしくは無い)。

オリジナリティ

上記のクラスタリング手法の有効性を示した上でシステムに導入できればオリジナリティと言える。

情報推薦

クラスタリングといった前処理を行うことで、協調フィルタリングを実装する上での推薦精度問題も解決できる。

数値実験および考察

上記のクラスタリングおよび情報推薦を行った結果を示す.

おわりに

まとめ

進捗

- 先行システムについての調査
- クラスタリングについての勉強

今後の課題

- 先行システムの調査を引き続き行う
- クラスタリングの調査と実装